

# 東海財界倶楽部例会開催 藤原浩昭名古屋入国管理局長を招いて



講演を行う名古屋入国管理局長・藤原浩昭氏



乾杯の挨拶をする中部日中経済交流会会長・大矢裕慈氏

小社主催の異業種交流会「東海財界倶楽部」の第二回目が九月二十日、ホテルオークラレストランで開催され、名古屋入国管理局・藤原浩昭局長による「出入国管理行政の現況について」と題する講演を行った。

近年の日本また、名古屋の街中において外国人を多く見かける機会が増えている。全国の入出国者数を見ると、平成二十八年には二三〇〇万人を数えており、日本政府はこれを三十一年には

四〇〇〇万人に達する目標を掲げている。これらを踏まえて藤原氏は次のように語った。

「昨年、日本人の外国への出国者数を外国人の入国者数が超えました。四〇〇〇万人というのはとんでもない数字のように見えますが、不可能ではないと思います。

また、在留者数も増えており、外国人と暮らしていくのがこれからの日本社会の変化の一つだと思います。その先だっているのが愛知・名古屋です。名古屋は東京に次いで在留者数も多く、これはモノづくりなどの工業地域も多いためです。現在欧州では移民の問題があります。欧州も最初移民と位置づけず外国人労働者を多く取り入れていました。日本もこれをもつて教育、雇用を創出していく必要があると思います。」

講演の後、歓談に移り和やかに混信した。

主な参加者は、ナゴヤドーム・中西英夫取締役、セントレア・中山厚監査役、産経新聞・櫻井大輔名古屋総局長ら。